

## 令和5年度第3学期終業式式辞

おはようございます。

令和5年度第3学期終業式、けじめの日を迎えました。まずは3年生・40期生の皆さん、穎明館中学校の卒業おめでとうございます。4月からは高校生。高校でも目標を高くもって、努力を続けることを期待しています。

さて、穎明館生の皆さんにとって、3学期、そして令和5年度はどうでしたか。私たちは授業で、そしてHRで、また学校内外で、たくさんの言葉のやりとりをしてきています。私は「言葉の力」を信じています。令和5年度も思いを込めて、多くの言葉、メッセージを皆さんに贈ってきました。少しでも届いたのならば嬉しいのですが……。まずは振り返りをさせてください。

第1学期の始業式では、「未見の我を知れ」と、まだ知らない自分、可能性に満ちた自分に出会ってほしい、と伝えました。1年間に今までとは違う自分、成長した自分に気づくことはありましたか。自分では気づいていないだけで、今日は担任の先生から褒められるかもしれません。その言葉に素直に自信を深めて、進級してもらえればと思います。

第1学期の終業式では、「チャットGPT（生成AI）と人間について」話しました。天童荒太さんの文章を引用して、「損することを厭わない愛ある人間になれ」と呼びかけました。文化祭の準備やクラブ活動、何よりも勉強も読書も、皆さんの愛する力を鍛えてくれる営みに思える、といった言葉、気持ちに今でも変わりありません。春休みも愛する力を鍛える営みに力を入れてほしいものです。

第2学期の始業式では、「穎明館の魅力」という話の中で、イギリスの経済学者、アルフレッド＝マーシャルの“cool heads, warm heart”（冷静な頭脳、温かい心）を取り上げました。世の中には困っている人がいて、多くの問題点があります。今、自分の進路について迷っている人、悩んでいる人もいることでしょう。自分軸からのアプローチだけでなく、社会の様々な問題点からのアプローチがあることも忘れないでください。

第2学期の終業式では、「日本」について、太陽の話、そして柳田民俗学にみられる日本人の固有信仰、伝統と近代、不易流行の話をしました。「国際社会に羽ばたく真のリーダーの育成」という教育目標を持つ穎明館では、皆さんが、日本への理解を深め、日本に生きる自分の人生に太陽のエネルギーを感じながら、世界の隅々まで視野を大きく広げて、多様な人たちと友好的な人生を送ることを期待しています。

第3学期の始業式では「箱根駅伝」の話から、今の自分から未来の自分へ、また、今の穎

明館から未来の穎明館へ、心の襷をしっかりと繋いでいこうと呼びかけました。「穎明館こそわが誇り」——先日、穎明館から巣立っていった37期生、今年の卒業生も、高い進路目標実現を成し遂げ、見事に穎明館の伝統の襷を繋いでくれました。次は皆さんの番です。心の襷を繋ぐべく、一步一步前進していきましょう。

穎明館生の皆さん、どうでしょうか。少しは覚えている話がありますか。心に届いたメッセージはあったでしょうか。思えば令和5年度は、4月から校長HR行脚と称して、全学年全学級の教室でも、直接、皆さんに言葉を贈りました。いろいろな学年、学級の個性に触れて実に面白かった。真剣に聞いてくれてありがとう。「言葉の力」を信じている私としては、誰か一人でも、何か一つでも、心に残って勇気づけられたり、行動変容につながったりしていれば嬉しい限りです。もちろん、日常の授業やHR、学年集会、各種講演会などで学んだ一つ一つを大切に、自分のものにしてもらえていけば言うことはありません。今日は年度の締めの日、それぞれ1年間の学びをしっかりと振り返り、今後活かしてください。

さて、ここで私の、とある卒業生とのエピソードを一つ紹介します。

今年度9月の文化祭には多くのお客様がお見えになりました。本校の卒業生も久しぶりに顔を見せてくれて、にぎやかに大変盛り上がりました。教え子が立派になった姿を見るのは、教師冥利に尽きるというものです。そんな中で、とある女性が「私のことを覚えていますか」と言って教員室に現れました。「ごめんなさい。名前が出てこないんですけど……」と答えると、「今から20年ほど前に、1年間だけ倫理の授業でお世話になりました。先生の授業が好きで、よく勉強したので高得点もとれました。先生の言葉が心に響いて、授業中に下を向いて涙していたこともあります。今は都内の私立高校で倫理を教えています」と、微笑んでくれました。突然のことに照れ臭く、とまどいました。同時に自分の言葉を真摯に受け止めてくれていた卒業生の姿に感動しました。その時は、「20年ぶりの告白に感謝するよ。教師は生徒の成長や人生に寄り添う、やりがいのある仕事だね。同じ志を持つ教師として、ともに頑張りよう」と伝えるのが精一杯でした。

その後、落ち着いて考えてみると、「言葉の力」ということでは、私が発した言葉で励まされたり、勇気づけられたりした生徒ばかりではない。きっと傷ついたり、やる気を削がれたりした生徒もいたかもしれない、単純に喜んでばかりはいられないと思い至りました。長く教師をしていると、生徒のいたらなさや失敗に対して、厳しい言葉を突き付けたこともあります。言い過ぎたと後悔したこともあります。もちろん、卒業してしばらくして、「あの時、先生が厳しくしてくれたから今の僕があります」などと伝えてくれる、ありがたい教え子もいます。それでも私の言葉に深く傷ついたままの人もあるかもしれない。言葉というも

のは、その扱い次第で、人を左右する力を持つ、素晴らしくもあり、恐ろしくもあるものだと思います。

穎明館生の皆さん、皆さんは言葉を大事にしていますか。「言葉の力」に気づいていますか。友達に向ける言葉はどうですか。あなたの言葉は相手との関係を温かくする言葉ですか。それとも悲しませたり、がっかりさせたりする言葉ですか。あまり考えずに、日頃は無自覚に言葉を使っていますか。言葉の大事さに気づいている人は、「人を傷つける言葉が自分自身を傷つける」という意味も分かりますね。自分の人生を大事に生きたいと思うのならば、まずは言葉を大事に使うことから始めてほしいと思います。言葉を大事に使うためには、やはり読書、とくに時代を超えて伝わる古典を読むことを勧めます。また、臆することなく、世代を超えた様々な人たちと交流をもち、対話を重ねることも必要でしょう。若き皆さんが、言葉ゆたかに、豊かな人生を歩んでいくことを望みます。

最後に戦前、新潟の師範学校を卒業し、尋常小学校の教師をしていた高橋系吾さんの作と言われる言葉を紹介します。

その一言

その一言で 励まされ  
その一言で 夢を持ち  
その一言で 腹が立ち  
その一言で がっかりし  
その一言で 泣かされる  
ほんのわずかな一言が  
不思議な大きな力を持つ  
ほんのちょっとした一言で

心に響く言葉をもって、人に勇気と希望を与えられるような人間になりたいものです。

以上、令和5年度第3学期終業式式辞といたします。